

健康寿命をのばそうシンポジウム(第6回)

静岡県健康福祉部は、平成31年3月15日(金)ホテルセンチュリー静岡5Fセンチュールームでシンポジウムを開催しました。

前回の第5回は平成30年10月25日開催しており、この報告については竹内 章 静岡地区いきがい特派員の記事を掲載済みです。

今回は医療、福祉関係者、自治体及びこれまでのシンポジウム受講者を対象に社会健康医学の知と人材の集積拠点として、県が設置を目指している大学院大学がテーマです。静岡県は健康寿命男女ともトップクラスであり更なる健康寿命の延伸のため、社会健康医学の視点を取り入れた施策を推進しています。このため、平成30年より社会健康医学推進委員会を設置し、委員長は京都大学特別教授 本庶 祐氏(ノーベル医学賞受賞者)です。

県の発表では、池田 和久 静岡県健康福祉部長による「社会健康医学大学院大学の設置に係る基本構想の概要」では、2021年4月の開学を進めており、施設として県立総合病院に隣接する環境衛生研究所及び県立総合病院のリサーチサポートセンターを有効活用、基本構想(案)へのパブリックコメントを3月18日まで実施しているとの話があった。『社会健康医学とは、直接、病気の治療を研究する分野でなく、病気を予防するまたは病気にならないような地域環境を研究する総合的かつ新たな学問分野である。』

基調講演では、京都大学大学院の中山建夫教授による京大School of Public Health が育てるプロフェッショナルについて、具体例として滋賀県長浜市との共同で関連検査を幅広く行った。そして健康情報を収集し地域の成人病予防、健康増進に役立たせている状況の紹介がありました。

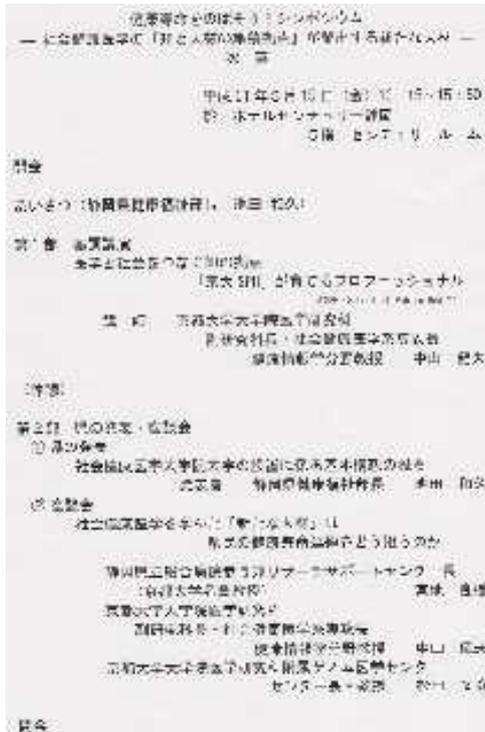
座談会は、県立総合病院参与の宮地良樹氏、京都大学大学院医学研究科ゲノム医学センターの松田文彦教授が加わり、社会健康医学を学んだ新たな人材は、県民の健康延伸をどう担うのか意見交換がありました。

また公衆衛生大学院は、国内では京都大、九州大、東京大、帝京大、聖路加国際大がパブリックヘルスの認定専門職大学院です。

最後閉会に当たり、公益財団法人しずおか健康長寿財団 佐古 伊康 理事長が、大学院大学の設置により医学の分野の教育の拡がりを期待するとコメントしました。

問い合わせ先 静岡県健康福祉部管理局政策監付企画班 054-221-2363

(取材 富士・富士宮地区生きがい特派員 原 義廣)



静岡県現状(健康寿命)

性別	平成22、25、29年平均	平成28、29、29年平均
男性	72.15	75.43
女性	72.15	74.46

健康寿命シンポジウム2-s